

## PandocでMarkdownから業務文書.docxを作る

引き継ぎのためにはWordで残さざるを得ない

日下部幽考

2025-05-21

### 概要

このファイル群は、業務文書をMarkdownで執筆し、Pandocを通してMicrosoft Word形式にするためのものである。Markdownはテキストエディタによってテキストファイルとして書けるため、Microsoft Wordの将来の価格・存続にかかわらず保存できる。

次のような読者を想定する。

- Pandocの導入が済んでいる。
- Markdownの記法を知っている。

### 背景

私は教員として働いている。職場では、業務にかかる文書はMicrosoft Wordで作ることが暗黙の了解となっている。しかし、Microsoft Wordは重さ・お節介・保守性などの面で気になる点がある。また、もしも社会情勢上または職場環境上の理由からMicrosoft Wordが使えなくなったとき、失われるものは計り知れない。

そこで、Microsoft Wordは出力結果にとどめ、テキストデータとして文書を作るための環境を整えたい。

### 解決

Readme.docxはReadme.mdからMake\_Docx\_Document.batで（pandocを使って）処理したものである。

### 共通の仕様

- BIZ UDフォントを既定としている。
- 強調は日本語らしい設定にできていない。出力したファイルをWordで開くと、スタイルの欄に**\_\_strong**という名のスタイルが用意されている。これを使ってもらいたい。注意： 手動で適用した。
- 箇条書きは適切に設定できていない（compactスタイルを書き換えることで実現しているため）。本来のcompactスタイル用途としては、代わりに\_originalcompactスタイルを使うことができる。また、箇条書きの

ネストもうまく働かない。第2階層以降は、「インデントを増やす」により手動で調整する。

- 日本語と英語・数字の間は自動調整しない。ベタ組の仕上がりを優先している。

### **@document.md + Template\_Document.docx**

内部向け資料を書くためのテンプレートである。

- titleに文書タイトルを書く。
- subtitleも使える。空欄にしておくと省かれる。
- dateに日付を書く。形式は何でもよい。
- authorに作成者名を書く。
- 1番目の見出しはタイトルと同じ体裁を出力する。基本的には、2番目の見出しから使うことを想定している。これは、strict.mdと原稿を互換にするための措置である。

### **@strict.md + Template\_Strict.docx**

外部向け資料を書くためのテンプレートである。

- title, date, authorは適切な位置に配置できないため、これらは使わない。
- 日付・宛名・発行者名は地の文となっている。生成されたファイルをWordで開くと、スタイルの欄に準備されているため、これを用いる。  
@Authorが発行者名、@Dateが日付、@Toが宛名である。

### **Make\_Docx\_Document.bat**

@document.mdに従って書かれたNAME.mdファイルをドラッグアンドドロップすると、同じフォルダにNAME.docxが生成される。

Template\_Document.docxと同じフォルダに置く。使いやすい（ドラッグ&ドロップが楽な）場所にショートカットを置くことを想定している。

### **Make\_Docx\_Strict.bat**

@strict.mdに従って書かれたNAME.mdファイルをドラッグアンドドロップすると、同じフォルダにNAME.docxが生成される。

Template\_Strict.docxと同じフォルダに置く。使いやすい（ドラッグ&ドロップが楽な）場所にショートカットを置くことを想定している。

## 補足

Markdownからきれいな文書を出力することが目的であれば、LuaLaTeXを経由してPDFを出力することをすすめたい。このファイル群は、職場内における共有のためにWordファイルにせねばならないことを念頭に作られている。

- 最新の情報： 注意：両端揃えは手動で解除した。  
<https://www.metaphysica.info/2022/md-generated-docx/>
- 連絡先： 注意：両端揃えは手動で解除した。  
<https://twitter.com/metaphysicainfo>
- MIT license
- Copyright (c) 2022-2025 Yukoh Kusakabe

改変は一切自由である。

Readme\_20241220.pdf の見た目のほうが好みであれば，  
Template\_Document\_20241220.docx を Template\_Document.docx にリネーム  
すれば適用されるテンプレートを切り替えられる。

## 参考

- [日本語Markdownユーザー会](#)
- [日本Pandocユーザ会](#)
- [Pandoc.org](https://pandoc.org)

## 改訂

- 改訂： 2025-05-21
  - 見出しの体裁を2024-07-29版のものへ戻した。
  - `__em` の名前を `__strong` に変えた（HTML と統一するため）。
  - マニュアルのURLを変えた。
- 改訂： 2024-12-20
  - 本文・compact を両端揃えとした。
- 改訂： 2024-11-02
  - 用紙サイズをB5判からA4判へ変更。それに伴いフォントサイズを変更。B5印刷は、プリンタの出力用紙機能またはPDFを経由することを想定している。
  - ヘッダ・見出しをはじめとするプロポーショナルフォントを等幅フォントへ変えた。
  - 見出しの体裁を変えた。

- Document (Modern) において、AuthorとDateの位置を変えた。
- Document (Modern) において、偶数ページと奇数ページの体裁を揃えた。
- 公開： 2022-07-29
  - 初回公開版である。

注意： この箇条書き第2階層は、「インデントを増やす」により手動で調整した。